

フランソワ・オランド・フランス共和国大統領国会演説（仮訳）

東京、2013年6月7日（金曜日）

参議院議長、

衆議院議長、

内閣総理大臣、

閣僚の皆さま、

国会議員の皆さま、

アジアで最も歴史ある国会にお迎えいただき大変光栄です。貴国の民主主義は我が国の民主主義とともに、日本とフランスは共に手を携えて、自由、尊重、相互理解の価値観を中心に長い道のりを歩んできました。

フランスと日本の間には、いつの時代でも意思の疎通を図った人たちがいました。私は日本の賛美者であるジョルジュ・クレマンソーと親交が深かった西園寺公望公に思いをはせます。私は1890年に実施された日本で最初の衆議院議員選挙で当選した中江兆民にも思いをはせます。彼は「東洋のジャン=ジャック・ルソー」——ほめ言葉だと思いますが——と呼ばれました。啓蒙思想を教える学校を開校したからです。啓蒙思想は国境がなく、特定の国民に属することなく、それは普遍的な価値であり、だれもが圧力をかける必要なく、自由と文化を得ることができるとうたっています。

駐日フランス大使を務めたフランスの偉大な詩人で、我々が今いるこの国をよく知っていたポール・クロードルは、両国民の関係を描写するため、こう書き記しました。我々は共に「直感的な親近感」に突き動かされていると。それから1世紀、「直感的な親近感」は固い友情になりました。

それが2011年3月11日の悲劇のとき、日本に対するフランス国民の連帯表明につながりました。今日もまた、この演壇で、私はフランス国民を代表し、この悲劇に立ち向かった日本国民の強い精神力に、我々の全面的な支援と深い

感嘆の念を表明します。我々は今日もなお、日仏両政府が手を携えて努力するため、復興と施設の安全に協力するため、皆さまの側についています。

我々をお互いに近づけているものは歴史だけではなく、文化でもあります。貴国の文化は常にフランスを魅了してきました。我々は昨年、パリ国際ブックフェアにノーベル文学賞作家の大江健三郎をお迎えしました。我々は日本の作家を愛読し、日本の建築家に目を奪われ、今年のカヌヌ映画祭で再び賞を受賞した日本映画を愛好しています。

フランスに年間70万人の日本人観光客を迎えていることを誇りに思うと同時に、さらに増えることを願っています。私はこの演壇から呼びかけたいと思います。フランス旅行にぜひいらしてください。フランス人は日本を旅行しに来ようではありませんか。

我々を結びつけるものとして、文化、友情、そして歴史を挙げました、すなわち政治です。我々は150年前に外交関係を樹立しました。フランスは明治時代、日本の近代化に貢献することを望みました。フランス人技師のレオンス・ヴェルニーが、日本で最初の近代的な海軍工廠の建設を指揮しました。

日本に最初に進出したフランス企業はエア・リキードで、1905年のことでした。さらに年を追うごとに、とりわけ1945年以降、フランスと日本は経済面、政治面で実り豊かな関係を結びました。

フランソワ・ミッテランは1982年、フランス大統領として初めて日本を国賓訪問しました。彼もまた日本の国会で演説しました。後任のジャック・シラクが日本に抱いた情熱は語り草となりました。私の前任のニコラ・サルコジも日本を訪問しました。要するに、大統領が代わっても、政権が代わっても、フランスは両国関係の針路を常に維持したのです。

しかし今日、私はフランスと日本の上に特別なパートナーシップを築くべく新しい段階に入ることを望みました。我々は本日、貴国の総理大臣とこのことについて合意しました。

何よりもまず、平和と安定のためのパートナーシップ。

私は地域に存在する緊張をよく存じており、それらを憂慮しています。緊張

が沈静、対話、国際法の遵守により解決されることを望みます。国際法は相違を解決するための唯一の基準に諸国を導くに違いありません。

時には苦しい過去の後遺症に終止符を打つ必要もあります。ヨーロッパの例を挙げさせてください。ヨーロッパも 20 世紀に悲劇を経験しました。我々はそれらを乗り越えることができました。今年、例えば、あれほどまでにいがみ合い、戦い合ったフランスとドイツが、友好条約の締結 50 周年を祝いました。昨日まで先祖代々の敵だった我々は、今日ではヨーロッパに団結、一体性、力を与えるべく連帯しています。この事例が世界中の国々に役立つものと確信します。

とはいえ、フランスと日本は平和のために果たすべき卓越した役割があります。

フランスは国際連合安全保障理事会の常任理事国だからです。日本は安保理常任理事国になるべき国であると同時に平和国家だからです。

貴国が世界各地で平和維持活動に貢献する選択をしてから 20 年以上になります。皆さまがコート・ディヴォワールをはじめ、アフリカで取り組まれたことをよく存じています。飢饉や戦争の悲劇に遭うやもしれない諸国を支援するため、日本国民の寛大さによる支援も含めて、そのたびに貴国に援助が求められています。

日本人がアルジェリアのいわゆるイン・アメナスの悲劇に、耐え難い痛みや苦しみを受けたことも存じています。この流血の人質事件では、フランスも深刻な結末で犠牲者を出しました。我々はテロと闘うために共に行動しなければなりません。惨事を防止できるように共に行動しなければなりません。

それがアフリカ西部のマリへのフランスの介入が意味するところです。私がこの責任を負ったとき、我々を支持した日本政府に対し、感謝の意を表明します。私は単にフランスのみならず、国際社会の名の下に、これに取り組みました。というのも、我々のだれもがテロリズムと無関係ではないからです。今日、この作戦は終了し、国連がフランスやアフリカ諸国軍の後を引き継ぎます。我々はマリに対して安全を確保できるでしょう。

とはいえ、テロリズムは一つの国のみに存在するわけではありません。今や

アフリカ全土、さらにアフリカを越えて侵入しています。我々は行動しなければなりません。何よりもまず、アフリカの開発に必要な手段を供与しながら行動すること、これには皆さまが長年、取り組んでこられました。

テロリズムのほかに、もう一つ害毒があります。それは核拡散です。私はここで改めて明言します。イランと北朝鮮の態度は容認できません。というのも、核兵器の拡散は平和にとって最大の危険にほかならないからです。我々は皆さまとともにイランに対し、国際義務の遵守と核計画の完全で検証可能かつ不可逆的な停止を必要な限り訴えます。

北朝鮮に対しても同じように、我々は制裁措置を維持し、確認し、強化していきます。全体主義の国が世界平和を危険にさらすことは容認できません。北朝鮮における人権侵害も告発します。我々は皆さまに——私は皆さまにフランスを代表して——痛ましい日本人拉致問題について全面的な支持を表明します。

我々は核不拡散条約の完全実施のために一丸となって取り組まなければなりません。この運用に関する検討会議が2015年に開催されます。2015年、すなわち広島と長崎の被爆70周年です。

私が受けている歓迎に対し、日本当局に感謝の意を表明します。今回の訪問が防衛に関する協力も含めて、一層の前進につながることを願っています。我々、安倍総理大臣と私は、世界情勢を分析し、我々が緊張に対して適切な措置を講じ、適切な解決策を連動して実施できるようにするとともに、国際機関における共通の結論を守ることができるように、両国の外務大臣と防衛大臣が定期的に会合を開くことで合意しました。

安全は軍事だけに関係するものではありません。自然災害防止にも関係します。フランスは太平洋地域で果たすべき役割があります。というのも、フランスの領土が世界のこの地域にあるからです。

我々は開発、食料安全保障、不平等削減のためになすべきことも認識しています。我々は両国ともに経済大国であり、世界情勢に対する責任があります。

フランスと日本のパートナーシップは成長に寄与しなければなりません。ここ日本における優先課題であり、フランスにおける優先課題です。

我々は世界 5 位、貴国は世界 3 位の経済大国です。我々はあまりに長い間、終わりのない——ここではデフレ、ヨーロッパでは景気後退、景気停滞と呼ばれる危機の中で暮らしています。将来に対する疑念や不安がいつまでもあっては、我々は国民に対して、その歴史にふさわしい希望を与えることができません。我々は信頼感に満ちた空気を醸成しなければなりません。我々は日本、ヨーロッパ、フランスの若者に対し、彼らに将来居場所があると、我々の世代よりも境遇がよくなると言わなければなりません。彼らは今日、そのことに疑念を抱いています。

我々が成長への道にあることを示す経済政策をとるべき理由もそこにあります。安倍総理大臣が経済政策を策定したことは存じています。私がフランスで進める経済政策をここで皆さまにお伝えしたいと思います。それは雇用を最重視すること、すなわち我が国の企業の競争力と市場シェア獲得能力のために全力を尽くすこと、所得増加が内需を刺激するようにすることです。

われわれにはそれぞれやるべき努力があります。我々が改革すべきことは、労働市場、競争力、投資に関する改革です。我々の成長目標に見合ったテンポで、堅実な財政政策を進めていかなければなりません。

皆さまが、時に関心を呼ぶ意欲的な金融政策をとっていることは存じています。通貨は各通貨圏の経済を反映しなければならないと私は考えています。通貨で競争が歪曲されないように、諸通貨が通貨間の整合性ととも、経済政策の目標と一致するように、国際レベルで通貨システムの改革が必要になるでしょう。

私は我々が経済協力を拡大できるように望んでいます。経済協力はすでに高い水準にあります。日本はアジア最大の対仏投資国です。日本企業 440 社がフランスに進出しています。我が国に進出された日本企業に対し、ここで敬意を表したいと思います。これらの企業は 7 万人以上を雇用しています。

日本にはフランス企業 400 社が進出し、投資総額は 160 億ユーロに上ります。我々は世界 3 位の対日投資国です。この相互信頼レベルをさらに引き上げられるように、より多くのフランス企業が来日するように、より多くのフランス企業が日本に進出するように、フランス企業と日本企業の間で提携が結ばれるように願っています。我々はエネルギーや自動車の分野でそれを示すことができました。これがよい参考になるに違いありません。

経済政策について一致点があるのですから、それらを共同で掲げようではありませんか。世界経済ガバナンスの枠組みにおいて、友好国や同盟国の前で、その機会が近く訪れるでしょう。私は G8 と G20 の会合のことをお話ししています。我々はいくつかのテーマを議題に入れなければなりません。

第一に成長です。世界中の国々が成長すべきです。新興国が成長を経験する一方、先進国はもはや成長の権利はないと思わせるままにはしません。あたかも「古い世界」にとっては終えんし、新しい世界にとっては万事が可能であるかのように。それは違います。我々の経済は相互依存しています。我々は今や互角の技術レベルにあります。世界全体が成長目標を掲げるべきです。

我々が強調すべき第二のテーマは環境保護です。皆さまがここで経験しておられるように、フクシマ後があることは確かです。もはや何も以前のままではありません。同じような災害がここでも、よそでも再び起こらないように、あらゆる教訓を引き出さなければなりません。我々はそれに取り組んでいます。日本とフランスは、議論の余地がない安全レベル、可能な限り最高のレベル、原子力エネルギー生産の維持を国が決定できるようなレベルを示さなければなりません。我々は廃棄物問題を扱うとともに、閉鎖を決定した発電所を解体しなければなりません。ここにもまた日本とフランスが、手を携えて取り組むべき大きな挑戦があります。

我々はエネルギー資源の多様化にも取り組まなければなりません。ここに利益の一致があります。日本とフランスは石油資源がありません。それだけになおさら共に取り組み、再生可能エネルギーで先を行けるようにすべきです。

我々は気候変動対策にも共同で取り組みたいと思います。フランスはすべてのパートナーが同意すれば、2015 年に気候会議を開催します。この会議が成功するために、日本がこの取り組みにおいて我々を支持するよう願っています。ここでもまた、貴国の例は貴重です。ここ日本では、エネルギー効率や再生可能エネルギー、公害対策のために有効な措置が長年講じられてきました。

国会議員の皆さま、

以上が今回の訪問に際して、皆さまに表明したかったことです。フランスと日本の間の豊かな歴史を知ることを誇りに思い、同じ文化的な野心を共有する

ことを誇りに思い、一致した政治的立場を有することを誇りに思います。しかし同時に、我々のパートナーシップを一段上に引き上げ、日仏友好関係が地球レベルで成長、雇用、環境保護、不平等対策に寄与できるようにする義務があります。

我々はヨーロッパとアジアとの間により強固なつながりを持つ必要があります。日本とヨーロッパのパートナーシップ、すなわち貿易に関して近く開始される交渉が意味するところでもあります。この交渉が順調に進むことを願っています。関税もしくは非関税の障壁を撤廃することは、すべての人の利益です。障壁は至る所に、すべての製品に対してあります。皆さまはフランス料理を高く評価し、我々は和食を高く評価しています。我々は食品が障害や不安なく流通する方がはるかにいいのです。

食品について言えることは、ほかの多くの製品についても言えます。市場がすべてに侵入しないようにある程度のルール——互惠性、特に文化的製品をはじめとする一部の製品の除外（いわゆる文化的例外）——が適用されれば、貿易は成長の支柱になり得ます。我々はヨーロッパとアジアが近づくことを必要としています。ヨーロッパ連合において、私はこの接近、この友好の支持者の一人となり、代弁者となります。今回の訪問で受けた歓迎に、その思いを一層強くしています。

信あれば徳ありという日本のことわざがあります。ゆえに最も難しいのが信頼です。我々はこのことを経済面で認識しています。政治面でも認識しています。信頼は布告されるものではありません。宣言されるものではありません。信頼には根拠があります。信頼は確かめるものです。信頼は確認されるものです。とはいえ我々は古くから、両国の間に信頼が築かれていることを知っています。それは苦難を通して強化されました。今日、それは目標を通して強固になりました。

さて、国会議員の皆さま、我々がこの相互信頼に支えられ、日本のためにも、フランスのためにも、ヨーロッパのためにも、恩恵が訪れるのを目にする日は遠くないでしょう。日本国万歳！ フランス万歳！ 日仏友好万歳！

dernière modification le 12.06.2013